

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 (松阪工業高等学校 定時制課程)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○生徒一人ひとりが基本的な生活習慣を身につけ、社会生活に適応し、個に応じた自己実現を果たすことを支援する学校 ○生徒の相互理解の精神を育み、相手の立場に立って考える人権感覚を養う学校
(2)	育みたい児童生徒像	○働きながら、前向きに学習に取り組む意欲を有する生徒
	ありたい教職員像	○生徒の個性を伸ばし、人間性を高めることを常に意識し、生徒の成長を自らの喜びとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒>理解しやすい授業、基礎学力の向上と、居心地の良い学校</p> <p><保護者>基本的な生活習慣を身につけること、基礎学力の向上と、安全で安心して通える学校</p> <p><進路先>基礎学力があり、コミュニケーション力のある人材</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><家庭>子どもや学校の現状の報告 <中学校>学校の様子と卒業生の近況報告</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭>学校教育活動への理解と協力 <中学校>継続的・効果的な指導のための個々の生徒の情報共有</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○校外活動等とおして地域の魅力や郷土の文化・歴史等について主体的に学び、将来の地域の担い手となること踏まえた指導をすることが大切である。</p> <p>○総合探究の取組やその成果を積極的にアピールするなど、定時制教育を必要としている生徒に対して松阪工業高等学校定時制を知ってもらう取り組みを一層進めることが大切である。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○基礎学力の取り組みをさらに推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていく。</p> <p>○キャリア教育の充実と、生徒が主体的・対話的に深い学びができるように授業改善に取り組む。</p> <p>○小中学校で不登校を経験している生徒や他校より再入学してくる生徒等、在校生は多様化している。また、生徒の多くが悩みや課題を抱えている。</p> <p>○近年、外国人生徒が増加傾向にあり、令和4年度の外国人生徒の在籍数の割合は59%(32/54名)を占めている。そのため、学校生活の中で、文化の違いやコミュニケーションにおいて困難な場合がある。</p> <p>○日本語に課題のある生徒については、入学時の現状認識から取り組み、継続的に指導を深められるように全職員が情報共有を行い、効果的な指導に取り組むように努める。</p> <p>○外国につながる生徒に対しても、就職時には、会社からは日本語の運用能力が求められる。そのレベルを見据えて、日本語教育を充実させる必要がある。</p> <p>○平素の学校生活においても、日本語を使わずに、母語等で済ませてしまうことも多く、日本語で意思疎通を行う機会を増やす生徒の意識改革必要がある。</p>	
	学校運営等	<p>○生徒一人ひとりに対し、生徒面談や教育相談等、きめ細かな指導体制をとっていく。</p> <p>○個人面談の充実と職員の情報共有を積極的に行い、組織的な指導の向上に努める。</p> <p>○生徒の基礎学力向上と外国につながる生徒の日本語指導力向上のため、ICT教育、JSLカリキュラム等教職員研修の継続と教材の開発を継続する。</p> <p>○ここ近年、県内教職員による生徒を著しく傷つける事案が続けて発生したことを踏まえ、教育への信頼回復のための取組が求められている。</p> <p>○少人数の教職員集団によって、多様な生徒の自己実現に向けて、いかに適切な対応をはかるかが大きな課題である。</p>	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○個別指導(三者面談・家庭訪問・教育相談等)を実施することにより、基本的な生活習慣・自らを律する精神を生徒一人ひとりが身につけている。</p> <p>○多文化理解教育を行い、他の国の文化や習慣を相互理解し、他人を思いやる心を持っている。</p> <p>○学習および学校活動への興味・関心・意欲を生徒一人ひとりが持ち、積極的に参加する学校となっている。</p> <p>○基礎学力の向上の取り組み等を推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていくとともに、コミュニケーション能力の向上、職業選択能力や、勤労観・職業観の育成を図る。</p> <p>○命を大切に教育、人権教育、道徳教育、キャリア教育、主権者教育等の充実を図る。</p>
学校運営等	<p>○生徒に提供する授業内容を充実し、基礎学力向上につなげるため、全教職員が連携して授業公開や授業研究などを行うことにより授業改善をすすめる。特に、生徒自身の主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを進める。</p> <p>○教職員が相互に学び合い高め合うことで資質能力を向上させ、学校の組織力を高める。</p> <p>○職員の総勤務時間の縮減に取り組むとともに、業務全般について時間管理を意識した効率化を進め、生徒も職員も生き生きとした学校を目指す。</p> <p>○風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切にし、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。</p>

4 本年度の行動計画と評価

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	<p>1 学習意欲の向上・授業を大切にしている意識づけのための取組</p> <p>(1) 生徒の生活状況を把握し、登校を促進する指導を行います。</p> <p>成果指標 ・年間授業出席率70% (全体) 以上</p> <p>(2) 授業以外の行事等へ積極的に参加できるように取り組みます。</p> <p>成果指標 ・授業以外の行事参加率80%以上</p>	<p>1 (1) 1・2学期の授業出席率は81.8%</p> <p>(2) 1・2学期 授業外の行事参加率は71.2%</p>	◎
	<p>2 基礎学力の向上を目指し、授業改善に取組</p> <p>わかりやすい授業の充実のためにICT機器を活用した授業等を行うことにより授業改善に努めます。</p> <p>活動指標 ・授業公開、授業改善日を年間5日以上設定</p> <p>成果指標 ・単位修得率90%以上</p>	<p>2 授業公開5日実施</p> <p>単位修得率92.7%であった。</p>	
	<p>3 多文化理解の教育による国際的な人権感覚を涵養する取組</p> <p>活動指標 ・人権講演会や人権啓発映画の視聴により命の大切さや他人を思いやる気持ちを育むための講話等を5回以上実施</p> <p>成果指標 ・アンケートを実施し、生徒の人権感覚が高まったと回答した生徒80%以上</p>	<p>3 人権感覚を涵養する取組を6回実施(3月まで)。</p> <p>アンケート調査ではすべての生徒が人権感覚が高まったとの回答。</p>	
	<p>4 日本語指導が必要な生徒に対する取組</p> <p>活動指標 ・必要な課外授業の実施。</p> <p>・日本語能力をはかる試験を学期ごとに実施。</p> <p>成果指標 ・日本語能力試験N5レベル問題を全員が70%以上</p>	<p>4 日本語指導が必要な生徒に対し、夏季休業中に課外授業を実施した。また、1・2学期に「日本語検定」を実施できた。</p> <p>N5 レベル問題は「文字・語彙」で98%、「文法」79%、「読解」で68%であった。</p>	

生徒指導	<p>生徒が主体的かつ自主的にいじめの防止に資する活動を行うための取組</p> <p>活動指標・学校生活アンケートを3回以上実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS等の適切な使い方に関する指導を実施 ・担任から生徒個々への声かけ1回/週 <p>成果指標・問題行動による指導件数3件以下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途退学者数3名以内 	<p>11月のいじめ防止週間で、ピンクマスクを着用し、いじめの防止に対する意識を高めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動は1件となった。 (学校のきまりが生徒に周知徹底できていなかったため、来年度は、集会等の機会を活用して周知徹底する。) ・中途退学者1名。 	
教育相談 保健指導	<p>健康で安全な生活の実現を目指した教育の充実</p> <p>活動指標・教育相談員の積極的活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の受診徹底と欠席者への受診機会の確保 <p>成果指標・教育相談の件数50件以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科検診、眼科検診の受診率100% ・ほけんたよりの発行件数5回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談員の相談件数364件(3月末現在) ・内科検診、眼科検診の受診率100% ・ほけんたより発行件数12回(3月末現在) 	
進路指導	<p>生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、学業と労働との両立の実現</p> <p>【活動指標】・キャリアガイダンスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイト等の就労の奨励・推進 <p>【成果目標】・就職を希望する生徒の内定100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイト等の就労生徒の割合70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に発達段階に応じたキャリアガイダンスを実施 学校斡旋による就職希望者の内定100%を達成できた。 ・アルバイトの割合は 4年85%、3年78% 2年86%、1年100% 	
改善課題			
<p>さまざまな課題を持つ生徒が多い中、社会的・職業的自立に向けた人材育成を推進する必要がある。若いうちは正社員として働くよりも、アルバイトをたくさんしたほうが収入が多くなるということもあるが、中長期的な視点をもって就労について考え、適切な職業選択ができるようキャリア教育を一層推進する必要がある。</p>			

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上 危機管理 組織力向上	<p>1 授業改善</p> <p>(1) 授業研究に取り組みます。 成果指標・各教科の相互授業見学3回以上</p> <p>(2) 日本語指導に関する外部研修に積極的に参加し、校内で共有します。 成果指標・研修への参加3回以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修参加者による校内職員研修3回以上 <p>2 進路指導</p> <p>ハローワーク等の関係機関との情報交換の月1回以上の実施</p>	<p>(1) 学期毎に相互授業見学の実施ができた</p> <p>(2) 外部研修に6回、校内研修3回実施できた。</p> <p>2 ハローワークと月1回以上の情報交換を行い、助言等を受けることができた。</p>	◎

	<p>3 ICT 教育の推進 生徒の実態を踏まえた ICT 教育の活用・充実 成果目標 ・授業等において、ICT 機器を用いた授業ができる 教員の割合 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業見学を 1・2 学期に各 1 週間実施。 ・各部主催の教職員研修を各年 1 回実施。 <p>成果指標 ・ 授業改善が進み、生徒にとって満足度の高い授業 が実施できたと回答した教職員の割合 8 割</p> <p>4 天災害に対する防災教育を地域と連携して行う</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器を用いた授業が できると回答した教員の割合 100% ・ 生徒にとって満足度の高い 授業が実施できたと回答 した教職員の割合 87.5% <p>4 地域の方も参加した防災訓練、 地元警察官による防災教育を 実施できた。</p>	※
働きやすい 職場づくり	<p>1 学年・分掌の協力体制を強化し、進路指導や生徒指導、教育 相談の情報共有を活発に行う。 成果指標 ・ 校務運営に積極的に関わることができたと回答した 教職員 70%</p> <p>2 労働時間の適正化に努め、ライフステージに応じて必要となる 休暇取得などを推進する。 成果指標 ・ 定時退校日（金曜日）を実施し、定時に退校できる 職員の割合 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内会議が 60 分以内に終了する割合 90% ・ 自分自身のワークライフバランスが向上したと回答 した教職員の割合 70%以上 ・ 年休と夏季休暇の合計取得日数年 20 日以上 ・ 月平均時間外労働の削減（5 時間以内） ・ 360 時間／年及び 45 時間／月を超える時間外労働 時間職員の人数 0 人 <p>3 互いに職場の仲間を思いやる心がけを大切にするとともに、教 職員一人ひとりが相手の意見を尊重しながら自由に意見を言い 合える職場環境づくり 活動指標 ・ 学校信頼向上のための委員会の設置 成果指標 ・ コンプライアンス研修 10 回／年</p>	<p>1 校務運営に積極的に関 わることができたと回答 した教職員 100%</p> <p>2 ・ 定時退校した職員 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 60 分以内に会議が 終了した割合 100% ・ 年休と夏季休の計取得 日数：20 日 0 時間 28 分 （3 月末日現在） ・ 月平均時間外労働 （のべ 5 2 時間 15 分） ・ 360 時間／年、45 時間／ 月を超える時間外労働 職員 0 人 <p>3 コンプライアンス研修 を 10 回実施し（3 月 末）、意識の向上と風通 しの良い職場作りを醸成 した。</p>	
改善課題			
<p>少人数の職員で外国人生徒や課題のある生徒に自己肯定感を育むためには一層のきめ細やかな教員の指導体制の連携が必要である。</p> <p>日本語指導が必要な生徒や、積極的に発言することが苦手な生徒から考えを引き出すには ICT 機器の効果的な活用について更なる取り組みを推進する必要がある。</p>			

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>学校の取組をSNS等で公開するなど、地域や中学生に本校の魅力を知ってもらえるよう情報発信を進める必要がある。</p> <p>定時制の生徒が広い視野をもってライフスタイルや職業選択をしているのか検証し、必要なキャリア教育を推進する必要がある。</p>
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>教育相談員や外国人生徒支援員等のスタッフを活用し、教員が連携して指導できる体制を構築する。</p> <p>キャリア教育全体計画を職員全体で共有しすべての教育活動で積極的に取り組む必要がある。</p>
<p>校運営についての改善策</p>	<p>授業改善を一層推進するためのひとつとしてICT機器を用いた授業を一層すすめる。</p> <p>風通しの良い職場づくりにより生徒情報をスムーズに共有する。</p>